

値下げ競争という消耗戦から脱却し、何としても収入を上げられる仕組みを構築しなければならぬ。

●交通政策は、政治と密接に関係している。政治は無関係ではない。

JR連合の政治方針は私たちの信頼できる政治家個人と連携して支援していくことである。

「ごみ」を託す

「ごみ」の時期には「ひかり」かがやき 「ごたま」するような春闘成果を

瀧井委員（新幹線協議会）



●新幹線協議会は、「安全確立」「働きがい向上」「新幹線重大インシデントの風化防止」を主要課題とし、幹事会を中心に各地方協議会と連携を図りながら、業務組織として活動を進めている。

そんな中、グループ会社社員の感電墜落事故、協力会社社員の触車事故が立て続けに発生し、2名の未来ある仲間の命を失ってしまった。

●山陽新幹線は2017年の重大インシデントを発生させ6年が経過した。インシ

交通政策をすすめる会の加入促進をはじめ、組合員とその家族に対して、より一層の政治への関心と理解参加を深める運動を継続していく。

て見習うべきことが多い。これから期待されるご利用回復、大阪万博をはじめとしたさらなる訪日外国人のご利用を控える新幹線の安全安定輸送に向けて、新幹線協議会と一体となった取り組みを要請する。

●賃金が高くなれば、安定した生活や将来設計、日々の働きがいにつながる。

●大現場化により旧支社エリアを超えた異動の増加が想定され、エリア手当が課題となる。

JAL機と海保機の衝突事故では、乗員乗客379人全員が18分間で無事に避難完了したことや、1月23日の上野-大宮間で停車した新幹線では避難開始から約50分で乗客359名の避難誘導を終えたことは、私たちとして見習うべきことが多い。

大単位化施策は 本当に効率的な業務執行体制なのか

北村委員（京都地方本部）

●安全について、福知山線列車事故から今年の4月25日で19年、湖西線近江舞子駅触車死亡事故からは16年が経過した。本年も近江舞子駅の献花台に安全確立に向けて愚直に取り組んでいくことを誓った。

●京都地本エリアでは、8月30日、近江塩津駅構内にて感電墜落の死亡労災が発生させてしまった。本当に悔やまれる思いである。

●昨年の1月24日に大雪で多くのお客様に迷惑をおか



けする事象を発生させて以降、京都地本エリアでは急遽で融雪器の設置が進められてきた。必要な部品がパッケージ化できておらず、組合員に負担がかかったが、何とか無事に12月1日の使用開始までに設置を終えることができた。

●3年4月入社の人であったことは、海外メディアを中心に「奇跡」と報道された。改めて同じ交通運輸で働く仲間として、航空業界の異常時訓練や安全対策など、学ぶことが多いと感じており、航空連合福岡スタッフライヤーン・オノン労働組と安全に関する意見交換を計画し、新たな気づきを得たいと考えている。

●昨年度からグラントシニア

同じ交通運輸で働く仲間として 航空連合と意見交換計画

大戸委員（福岡地方本部）

●「令和6年能登半島地震」でお亡くなりになった方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災された皆様にお見舞いを申し上げます。

そして、地震発生直後から鉄道設備の点検や復旧に向けて、昼夜を問わずご尽力いただいている金沢地本をはじめとする組合員の仲間の皆様に感謝と敬意を表したい。福岡地本としても、ボランティアも含め、全力でサポートさせていただく決意である。



●1月2日に羽田空港で発生した日本航空516便衝突炎上事故では乗員乗客379名全員が脱出できた。乗客を避難誘導した客室乗務員9名のうち、半数が202

●業務課題では、嵯峨野線はインバウンド旅客の回復などにより、多くのお客様に溢れが、季節と共に落ちつきを見せた。一方で、嵯峨嵐山駅特急停車においては、特急券をお持ちでないお客様の対応や料金ほ脱の対策等の課題はある。

その嵯峨野線を含む京都駅を含めた統括駅区の施策について既に提案を受けており、個別交渉を行う。しかし昨年12月に高槻駅管区と長岡京駅管区の統括駅区施策を実施したところであり、振り返りをせずにこの施策を進めていくことに対し、不安がある。

大単位化施策は本当に効率的な業務執行体制になったのか。本社に対しても大単位化が目指せなくなることがないよう訴えていきたい。

●基本給の逆転現象が起きていることにより、賃金昇進制度の見直しを求める声が再燃している。

●社会人採用が増え、30歳を超えて入社してくる方もいる。青女の活動に触れない世代が入っている。役員育成として課題認識しているのか。

●2月4日投票票の京都市長選挙では、新人5名の対決模様となったが、約1万6000票差で連合が推薦する松井孝治候補の勝利となった。

3年4月入社の人であったことは、海外メディアを中心に「奇跡」と報道された。改めて同じ交通運輸で働く仲間として、航空業界の異常時訓練や安全対策など、学ぶことが多いと感じており、航空連合福岡スタッフライヤーン・オノン労働組と安全に関する意見交換を計画し、新たな気づきを得たいと考えている。

●昨年度からグラントシニア

●1月2日に羽田空港で発生した日本航空516便衝突炎上事故では乗員乗客379名全員が脱出できた。乗客を避難誘導した客室乗務員9名のうち、半数が202



物価上昇の中で 春闘を闘い抜く事を誓う

杉野賃金対策部長



●物価上昇の対応が急務である。私たちの得る賃金はどうかあるべきかを、組合員からの声を元に真正面から闘う事をこの場でお誓い申し上げます。

●Eリア手当について、組織構造改革以降、組合員からその整合

●JR他社への出向で出向手

異常時対応の意見交換会の開催

川西教育部長



●教育トレーナーコースを開催

し、各地方本部受講していただいている。資料が完成したので各地方本部の教育に活用していただきたい。

●異常時の対応については、他業界の避難誘導についても勉強するべく意見交換についても検討する。

ローカル線存続と地方文化を考える

田中政策調査・福祉対策部長



●多くの自然災害のなかで、いろいろなことを最優先に議論させていただいている。

●自治体訪問等を通して、地方エリアとしてあるべきローカル線の姿について議論していきたい。

●多くの自然災害のなかで、いろいろな地方議員が議会発言をさせていただいている。なかなか自治体では解決できない、甚大な被害があるということもあるの

●JR西労組本部としても、すぐに申入れさせていただいて、今働いている組合員が不安にな

当が付かない問題について、子会社は出向手当の対象であり納得感に欠ける。

●労働協約改訂交渉時の回答で、口頭表明のあった内容について明らかにしていきたい。

●JR広島病院については、今春闘がJR西労組としての最後の春闘であるというふうにも聞いている。一番機運の高まったこの春闘でしっかり闘ってきたい。

●別居手当と「サテライト勤務」における通勤制度の改善については、特異なケースがなくあると思う。しっかりと成果を出せるように交渉していきたい。

●賃金の逆転現象について、今春闘にて議論しつくせない、賃金制度自体の課題と認識しており、課題提起していく。

●現在いるNS生は、これを終わらせるものではない。現NS生については、このまま引き続き運用を行うっていくことは会社としっかり確認している。

●我々はこの1・19簡月を忘れてはいない。ただこの1・19簡月をどのように獲得していくかについては、中央執行委員会ですべて議論してきたが、春闘場面での表現は困難と考えている。

この事を忘れず取り返すという強い気持ちで闘ってきたい。

視していかなければならない。

●共済加入に関して、社会人採用などで加入に苦慮している実態は理解しているものの、「相互扶助」を労働組合の原点だと思っている。その思いを伝えていくのが労働組合としての役割であると思っている。

●こくみん共済移転の取り組みについて感謝申し上げる。ありがとうございました。

●家族支援共済の脱退が非常に増えている。家族支援共済については、安い掛け金で保障が手厚い制度であるので、加入促進に向けた取り組みを要請する。